

2026 年度 JSCE2025 運営企画会議

DX 推進 WG 第 1 回 議事録

日時：2026 年 8 月 18 日（火）10:00～11:15

場所：土木学会 F 会議室 + Zoom（ハイブリッド開催）

出席者：熊本次期会長、吉岡理事（対面）、加藤理事、財津理事、寺田理事（オンライン）

事務局：三輪専務理事、二瓶、中島

欠席：小澤会長

配付資料

- 設置趣旨と今後の進め方について
- 検討 WG 委員名簿
- 学会誌 10 月号 座談会原稿
- システム刷新チームメンバー

主な確認事項 DX 推進 WG は、関係部門・支部・会員等の利用者と、基幹システム更新を担う事務局との橋渡し役を担う。事務局システム更新チームが更新構想と工程を明確化し、各部門がニーズを整理した上で、予算・工程を踏まえて反映可能性を協議する。

1. 設置趣旨と体制の確認

（1）設置趣旨及び位置づけ

- 本 WG は「情報システム刷新等による事務の効率化と会員サービスの向上」を主題とし、関係部門から選出された委員及び事務局により検討を進める。
- 本 WG の主査は小澤会長が務める旨が説明された。

（2）WG の役割と検討の視点

老朽化した基幹システムを学会業務に支障を生じさせず着実に更新することを前提に、次の 3 つの視点から DX の方向性と具体的なアクションプランを検討することが確認された。

- 事務局及び支部を含む学会業務の効率化
- 会員にとって意味があり、利用しやすいサービスへの高度化
- AI 活用等を含む、会員以外の市民・社会に対する貢献の高度化

また、本 WG は、関係部門・支部・会員・市民等の利用者ニーズと、システム更新の実務を担う事務局側の検討を結び付ける橋渡し役を担い、必要に応じて会員の意見も取り入れながら検討を進めることとされた。

(3) 基幹システム更新の現状

基幹システム更新の現状について、三輪専務理事から説明の後、意見交換を行った。

- 会員データベースの会員情報と、委員会システム、行事システム等の個別システムが相互に連携していない状況がある。会員情報を中核とし、複数システムを連携させる構成への移行を検討している。
- クラウド化を基本とし、約 3 年半をかけて段階的に更新する。フェーズ 1 では会員システム・マイページ・ウェブサイトを中心に今年度から要件定義・詳細設計を進め、フェーズ 2 では行事システム・図書販売システム等を扱う。各フェーズに関係する要望は、詳細設計に間に合う時期に整理する必要がある。
- フェーズ 1 で検討されている機能として、個人の委員会活動・行事参加・刊行物購入等の履歴を会員情報と連携して確認できるマイページ、会員による任意のプロフィール情報の充実、シングルサインオン、ウェブサイトの情報構造の整理等が示された。
- 支部関係では、支部における会員情報の入手、本部ウェブサイトへの支部行事の掲載及び行事申込み機能の連携等が主なニーズと認識しており、今後、支部の考えを再度聞く。
- システム更新は、事務局内のシステム担当職員、現行システムに精通した外部専門家、各業務の担当職員、外部アドバイザー等が連携して進めている。選定した事業者は、他学会の会員システム構築実績を有する。
- 現時点の見積りとして、初期開発費は約 1 億 1,000 万円弱、年間の運用費は約 1,140 万円と説明された。

(4) 主な意見

- 財津理事：システムの具体像が分からない状態では意見を出しにくいいため、共通の検討材料となる全体像を提示してほしい。官学民が保有するデータ、論文、技術情報等をデータベース化し、AI で横断検索できる仕組みは、会員メリット及び社会貢献につながる。会員制度や交流機会も含め、土木学会の会員になる意義を再検討する必要がある。

- 寺田理事：本 WG は運営上の部門横断的な共通課題を扱うものと理解した。シングルサインオン等の利便性向上に加え、外部の専門知見や他学会の事例を取り入れて開発を進めることが有効である。事務局業務の効率化、本部と支部の連携強化にも期待する。
- 加藤理事：学会の最大の資産は、論文、調査研究成果、教育・災害関係資料、講習会資料等の情報である。これらを DX で活用するためには、著作権等の権利関係を法的に整理することが前提となる。刊行物のデジタル化とサブスクリプション型提供、利用しやすいデジタル刊行物の設計、研究委員会が共同編集できるクラウド環境等も検討課題。
- 吉岡理事：現行システムの内容、改修の内容（方向性）及びその工程が理解できていないので、現段階では本 WG の最終的なゴールがイメージしにくく、具体的な提案が難しい。事務局内部の業務システムは事務局の検討に委ねつつ、WG としては支部・会員等が利用する機能を中心に意見をまとめることが考えられる。

2. 今後の進め方について

(1) 検討の進め方

次の流れを基本として、事務局側の検討と各部門側のニーズ整理を並行して進めることが確認された。

- 基幹システム更新の内容を「業務効率化」「会員サービスの高度化」「社会貢献」の視点で整理し、機能の具体像、フェーズ別の対象範囲、工程、意思決定時期及び部門からの意見提出期限が分かる資料を、事務局システム刷新チームで作成し、WG に共有する。
- 各理事は、所属部門内でシステムに対するニーズ、現状の問題点及び必要な機能を整理し、WG に持ち寄る。資料完成を待たず、現時点で把握している事項から検討を始める。
- WG では、各部門の提案と事務局の更新計画を照合し、予算及びスケジュールの制約を踏まえ、各フェーズに反映する事項と、現行の更新範囲外で別途検討する事項を整理する。整理結果は各部門へフィードバックし、必要に応じて検討を反復する。
- 生成 AI・検索基盤等、現行の基幹システム更新に含まれない提案は、対象範囲、予算、運用費及び実施時期を切り分けて検討する。

(2) 報告・検討スケジュール

- 2026 年 9 月 18 日の第 2 回 JSCE2025 運営企画会議において、各 WG が検討状況を 3 分程度で報告する。
- 11 月頃を目標に DX 推進 WG を 1～2 回開催し、各部門から提示されたシステム更新の方向性と事務局案との対応関係を整理する。第 3 回以降の運営企画会議では、各 WG 及び各部門の進捗を順次報告する。
- 2026 年度内に検討結果と次年度以降の進め方を取りまとめる。なお、基幹システム更新は実務工程が先行しているため、特にフェーズ 1 に関係する要望は早期に整理する。

3. その他

(1) コミュニケーション部門における検討

財津理事から、コミュニケーション部門では、プレスリリースのアーカイブ、イベント情報、論文集、学会誌等の信頼できる情報源を生成 AI 又は検索エンジンで検索できる仕組みを、8 月 31 日の部門会議で議論予定であるとの説明があった。

当該仕組みは基幹システム更新の範囲外であり、別途、予算・運用費・スケジュールを含めて検討する必要があることを確認した。コミュニケーション部門での検討結果は、本 WG にフィードバックすることとした。

(2) フェーズ間の整合

会費・参加費・刊行物代金等の請求・収納機能は、会員システム及び行事システム等と密接に関係するため、フェーズをまたぐ機能間の整合を考慮して更新を進めることを確認した。

対応事項

No	担当	対応内容	時期
1	事務局 (システム刷新)	システム更新の具体像を 3 つの視点で整理し、フェーズ別対象、工程、決定時期及び意見提出時期を明確化した資料を作成・共有する。	9 月頃を目途
2	各理事 (各部門)	部門内でニーズ、課題及び必要機能を整理し、WG に持ち寄る。	次回 WG まで
3	熊本次期会長 ・事務局	WG の検討プロセス及び想定成果物を文書化し、委員間で共有する。	速やかに

No	担当	対応内容	時期
4	熊本委員・事務局	第 2 回 JSCE2025 運営企画会議に向け、DX 推進 WG の 検討状況報告を準備する。	9 月 18 日